まちづくり基本方針検討委員会での検討経緯

平成 23 年度第2回まちづくり審議会 (H24.1.16)

基本方針のまとめかたについて

- ・前基本方針はなくなってしまうのか、生かすのか ・現方針のようなボリュームは必要ないのではないか 基本方針の位置づけについて
- ・各分野との関係を明確に。広義のまちづくりに関しては、他分野の計画に任せるのか、引き受けるのか
- ・長期ビジョンとまちづくり基本方針との関係

その他

- ・中間支援団体が重要になってきているため、「担い手」の定義、表現に気を遣うべき
- ・東日本大震災の反省等をどのように盛り込むかよく検討すべき

検討委員会の設置

第1回検討委員会 (H24.2.13)

改定の方針

現基本方針の 18 の基本方向ごとの取組を整理 長期ビジョンをまちづくりに関して整理 検討方針の提示

(位置づけ、想定年次、課題、将来像、取組など) まちづくりを取り巻く状況の変化を提示

(人口減少·少子高齢化、地域の自立、震災、環境·エネルギーの視点で整理)

【主な意見】

県民向けの明解なメッセージ性とボリュームダウンが必要 現方針はビジョンと類似、「まちづくり」の対象の絞込みが必要 まちづくりは地域のもの 地域の視点からの整理が必要 「人間サイズの~」はわかりにくい

<キ-ワ-ド>つながり、都市・地方の連携、震災の教訓、環境・エネルギー、コンパクトシティ、都市農地、人口減少・高齢化、優れた取組の評価顕彰

地域類型ごとに取組の現状と課題を整理

第2回検討委員会 (H24.3.16)

地域別の課題整理

基本方針の位置づけ、まちづくりの範囲

・「日常生活空間づくりとそれに関係する人づくりや 仕組みづくり」を対象範囲

地域ビジョンの4つの地域区分に対し、都計法、 緑条例の区分を活用して定義し、それぞれの取 組、現状、課題を整理

データ・資料・地域づくり顕彰事例を整理

【主な意見】

地域の前に、全県的な課題認識も整理すべき 対象範囲はまちづくり部局で取り組めるものを中心にすべき 将来像はイメージしやすいよう表現することが重要 県民、市町にわかりやすく表現し、県民の役割を示すべき 県民にわかりやすい指標の設定

<キ-ワード>ストック活用、地域間交流、つながり、まちの顔

- ・全県的な課題整理を踏まえ、懸念されるシナリオと目指すべき将来像を設定
- ·2つの軸で整理(4地域×4テーマ)

第3回検討委員会 (H24.7.2)

地域におけるまちの将来像と取組の方向 地域軸とテーマ軸の2つの軸を活用し、4つの地 域ごとに懸念されるシナリオ、目指すべき将来 像、取組方向を4つのテーマ別に整理

【主な意見】

時代認識は、まち存続への危機感を示すことが大事 取組の方向は、リーディングプロジェクトの打ち出しが必要 参考となる取組事例を提示することも重要 <キ-ワ-ド>持続可能、ノーマライセーションとイノベーション 等

- ・基本コンセプト(案)を提示
- ·県の取組むべき重点施策を地域×テーマで整理
- ・まちづくり事例集を提示

第4回検討委員会 (H24.7.31)

改定素案

改定素案(まちづくり審議会中間報告案)

- ・時代認識と改定の視点
- ・地域ごとの懸念・将来像と取組方向
- ・県が取り組むべき重点施策と指標

まちづくり事例集(案)、まちづくり指標集(案)

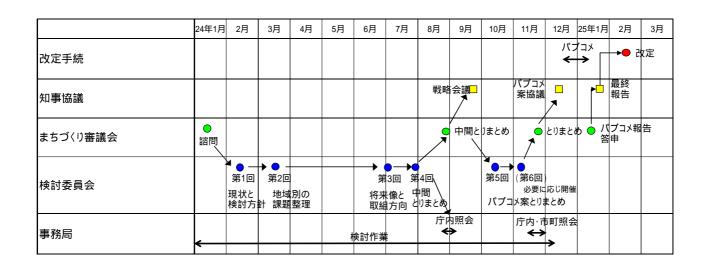
【主な意見】

- ・全体にメリハリが弱く、平板に見えるので、表現に工夫が必要
- ・目指すべき将来像に対応したよい指標を考えてほしい

資料 2

・重点施策は、県の取組だけでは地味。まず全体の取組方向があり、その中で県の取組を明確にすべき。また、県が先導的に取り組んでいる施策も積極的に表現

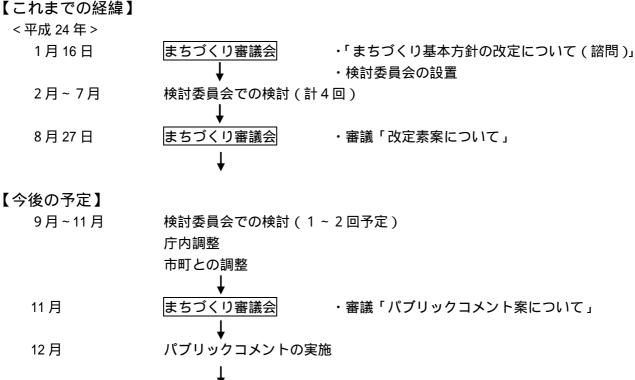
まちづくり基本方針の改定スケジュール



【これまでの経緯】

< 平成 25 年 >

1月



・パブリックコメントの結果報告

・「まちづくり基本方針の改定について(答申)」

2月 まちづくり基本方針の改定

まちづくり審議会